

## 熊本地震災害支援活動へ

笠岡市で東北の復興支援活動をおこなっている「明日への架け橋 Kasaoka」は宮城県南三陸町支援を中心に活動を展開しています。

4月14日・16日の熊本地震災害の復興支援についても会で話し合いを持ちながら「出きる支援」を考え実行しています。

4月17日の倉敷三斎市での募金活動、4月21日・22日の道の駅笠岡ベイファームでの募金活動などを中心に初動を開始しました。

この度、4名のメンバーで「災害支援ボランティア」として熊本市の社会福祉協議会のボランティアセンターでの活動を計画し、5月2日～5月5日の予定で支援活動を実施したものです。

### 準備段階

何処へ行ってどんなボランティアを行うか？個人か？団体か？

公式なホームページを見る限り熊本市のボラセン以外に県外・九州地域以外からのボランティアを受け入れているところがない。(ホームページ情報)

・熊本市社協のボラセンのホームページで確認。

まず、経費削減の意味もあり、高速道路等の無料化の制度は活用する。

### ○高速道路無料の申請

①熊本市災害ボランティアセンターHPで災害派遣等従事車両証明書発行に係るボランティア活動を行う予定である証明願いを作成し、熊本ボラセンへFAXする。

②折り返し、同じ内容で日付が記入されてFAXが返信されます。

③災害派遣等従事車両証明の申請書を記入し、②で返信された受け入れ予定のFAXを添付して最寄の市町村の危機管理担当課に提出。すぐに証明書がもらえます。(注：今回の場合は笠岡→益城熊本空港で1枚・益城熊本空港→笠岡で1枚計2枚)

### ○宿泊について

場所が確保できればテント持参でテント内、ダメだったら車中泊。周辺にもホテルも確保できそう。

### ○車両について

南三陸の時と同じ方法でレンタカーを借りる。(ゴールデンウィーク中だったのでワゴンがなく、普通車Sクラスで荷物だけで、4人で身動きとれなかった)

**活動メンバー** 福井敬司(笠岡商店街)・守屋元揮(笠岡市役所)・亜希子・守屋基範(笠岡市役所)



### 行程について

○5月2日 23時45分笠岡市役所発

電話で熊本で活動中の大妻女子大の干川教授からアドバイス

熊本で受け入れてもらえないときは宇城市のボラセンへとの連絡

○5月3日 午前5時45分熊本北パーキング到着 時間調整

7時15分熊本市災害ボランティアセンター到着 200名限定で打ち切り  
(到着時すでに打ち切り)

益城の状況をみながら、宇城市ボラセンへと移動。

高速走路(益城熊本空港IC～嘉島JAC間は毎日約3kmの渋滞上下とも)

9時30分宇城市ボラセン到着。干川教授と合流。宇城市のボラセンの責任者野田さんをご紹介いただく。(5月3日は雨と強風の為に全ボランティア中止)

10時30分干川教授に五ヶ瀬で活動中の杉田さんのところへご案内いただく。

午後2時南阿蘇村の拠点で落ち合いメンバーとの意見交換をおこなう。

杉田さんは民間のRQ九州五ヶ瀬ドームボランティアセンターの現地代表。日ごろか

ら五ヶ瀬を拠点に阿蘇地域でグリーンツーリズム系の活動をされている方で被災していない五ヶ瀬から南阿蘇町へ後方支援を行っている。民間の活動なので支援したい個人で繋がる活動で、農業と観光による復興支援を目指している。南阿蘇のリーダーは、物や金より「人材」が欲しいとおっしゃっていた。

3時30分干川教授と分かれて宇城市のボラセンへ引換えす。

6時宇城市ボラセンで寝床となるテント設営。夕食

テントを設営すると住民の方に声をかけていただく。毎日夕方に公園を歩くとのことで、震災以降、18日間毎日車で寝ているとのことで、こんなテントにゆっくり寝たいと。家は震災でさほど被害はないが、夜の地震が怖くて家の中では寝ることができないとのこと。2張りあるので1張り使ってくださいと勧めるが遠慮して来れなかった。朝来ると言われていたのですが会うことが出来なかった。夕方の話でテントを忘れて帰るから使って欲しいとも話したこともあり……。しかし、勝手なことを言っただけではいけないとボラセンの野田事務局長に質問すると「ここは住民の避難所として指定されていないので住民は避難することが出来ない」とのこと。あくまでも特別措置としてボランティアのみテント設置、宿泊可能ということらしい。私たちのテントがその方の役に立てば嬉しいか、行政としては平等性の立場からタブーであることに質問しながら気づき、忘れて帰ってもゴミになるだけだと思い直し翌日撤収し車に積み込む。

○5月4日 午前6時起床

午前7時30分宇城市ボラセン受付開始

8時から登録・オリエンテーション・マッチング・グループミーティング・資材貸与

9時30分ボランティア先へ出発

10時～午後1時30分 ボランティア先での作業

八代市の母娘2人と笠岡4名の6名で倒れたブロックの片付け、周辺に落ちた屋根瓦の片付け作業。高齢者世帯で娘さんがボランティアとのやり取りをしていただいた。ボラセンがリースしている軽トラックの数に限りがあるので即積みばその日に片付くものの、トラックが確保できないので取りあえずその場に固めておいてくださいとなる。(このお宅から瓦礫の収集場所まで約500m。そこに持って行く手段もない高齢者は大変だ。)

依頼者と集積場を確認する。(いろいろといい感じで集積所を片付けていた業者の方と話が出来て集めた瓦礫はダンプで全て片付けることが出来た。)

午後2時 依頼者宅の業務終了し、ボラセンに完了報告。本日のボランティア業務終了、近くに銭湯があると紹介していただき向かう。

午後3時30分 益城町の広安小学校にAMDAの大政さんを訪ねる。

午後5時 益城熊本空港ICより笠岡へ

○5月5日 途中渋滞もあり午前1時笠岡へ到着。

## 経費

レンタカー料金	17,160 円
ガソリン代	8,816 円
高速料金	1,140 円(笠岡ー熊本 21,400 円は災害派遣で無料)
ボランティア保険	1,720 円
合計	28,836 円



ここでボランティアセンターの駐車場が開く7時まで時間調整、朝飯タイムです。



2階のレストランは地震の為に閉鎖されていましたが、1階に売店があり飲食も十分揃っていました。

ここで体制を整えて被災地入りを・・・。

意 ⚠️ キケン注意 ⚠️ キケン

様へ

の「熊本地震」で被災された皆様にお見舞い申し上げますとともに、復旧・復興のためにいただいている皆様から感謝申し上げます。

階レストラン、旬彩館2号館は地震の影響により、営業を休止させていただきました。

には、ご迷惑をおかけ致しますがご理解賜りますようお願い申し上げます。

晴るばい熊本！

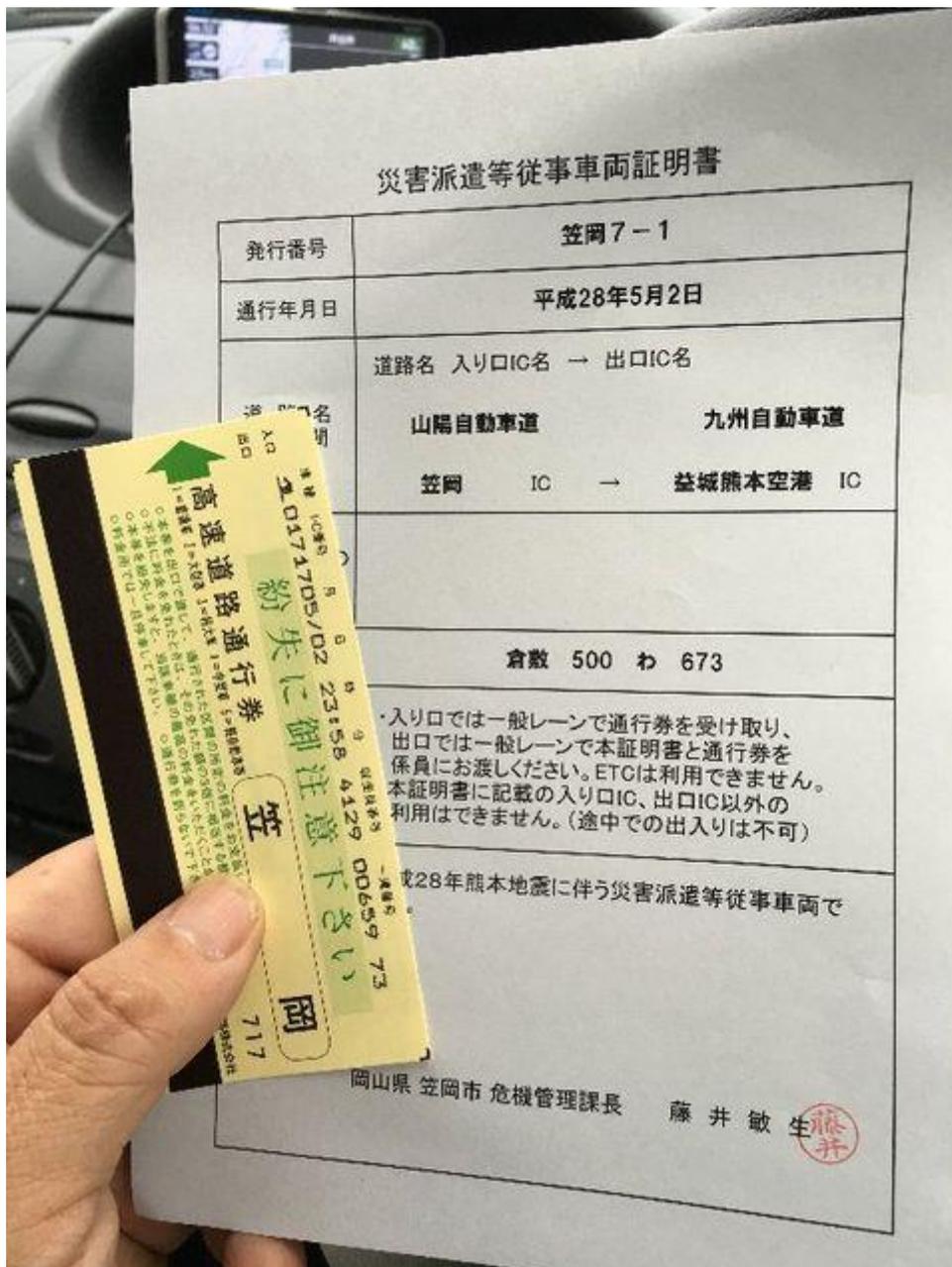
北熊本サービスエリア下り施設



現地入り早々に震度3です。これまでに経験したことのない揺れというか下から突き上げる感じです。

横揺れではなく下から車に突っ込まれる「ドン」と一瞬です。

2日間で震度3が3回です。(現地の方々は震度3ぐらいだとわからないともおっしゃっていました。変な慣れです)



高速道路を出る時は市町村より発行された証明書を係りの方に渡して内容を確認していただきます。



熊本のボランティアセンターの駐車場は熊本城の二の丸内でした。  
石垣がところどころで無残に崩れています。



天守閣も見ること出来ました。



7時30分の段階で今日予定していた200名(雨のために屋内作業のみ)のボランティアは受付打ち切りでした。多分その時点で200名以上が並んでいたのでしょう。予定変更です。



益城町の野口健さんのテントプロジェクトを道から見る事ができました。  
これから次の目的地宇城市のボランティアセンターに向かいます。



こちらが宇城市のボランティアセンター。広い公園の中にある一角を受付テントが10基ぐらい建てられています。こちらも午前7時30分時点で強風と雨の為に2次災害の危険性もあり全ての受け入れ中止と発表されました。



軽トラは全てリース。手書きの合言葉が素敵でした。



しかし、仕事内容からも軽トラックは6台程度では足りないのが現状です。軽トラックなどでのボランティア参加はかなり喜ばれると思います。

それと、大工さんが一番必要のようです。応急の屋根のブルーシート張りなどや、屋根の上にある瓦礫の撤去などは一般のボランティアにはできないので・・・。



全てのボランティアが中止ということで、干川先生案内でおじゃました RQ 九州の杉田さんグループのミーティング風景。







南阿蘇から宇城市のボランティアセンターに帰ってきて、テント設営です。



5月4日は快晴となりました。  
続々と九州地域のボランティアさんが集結しています。



宇城市は熊本市から 30 分程度のところです。  
日本建築で比較的立派な屋根がことごとく尾根の部分が崩れています。



午前 7 時 30 分ボランティア受付に並んでいます。

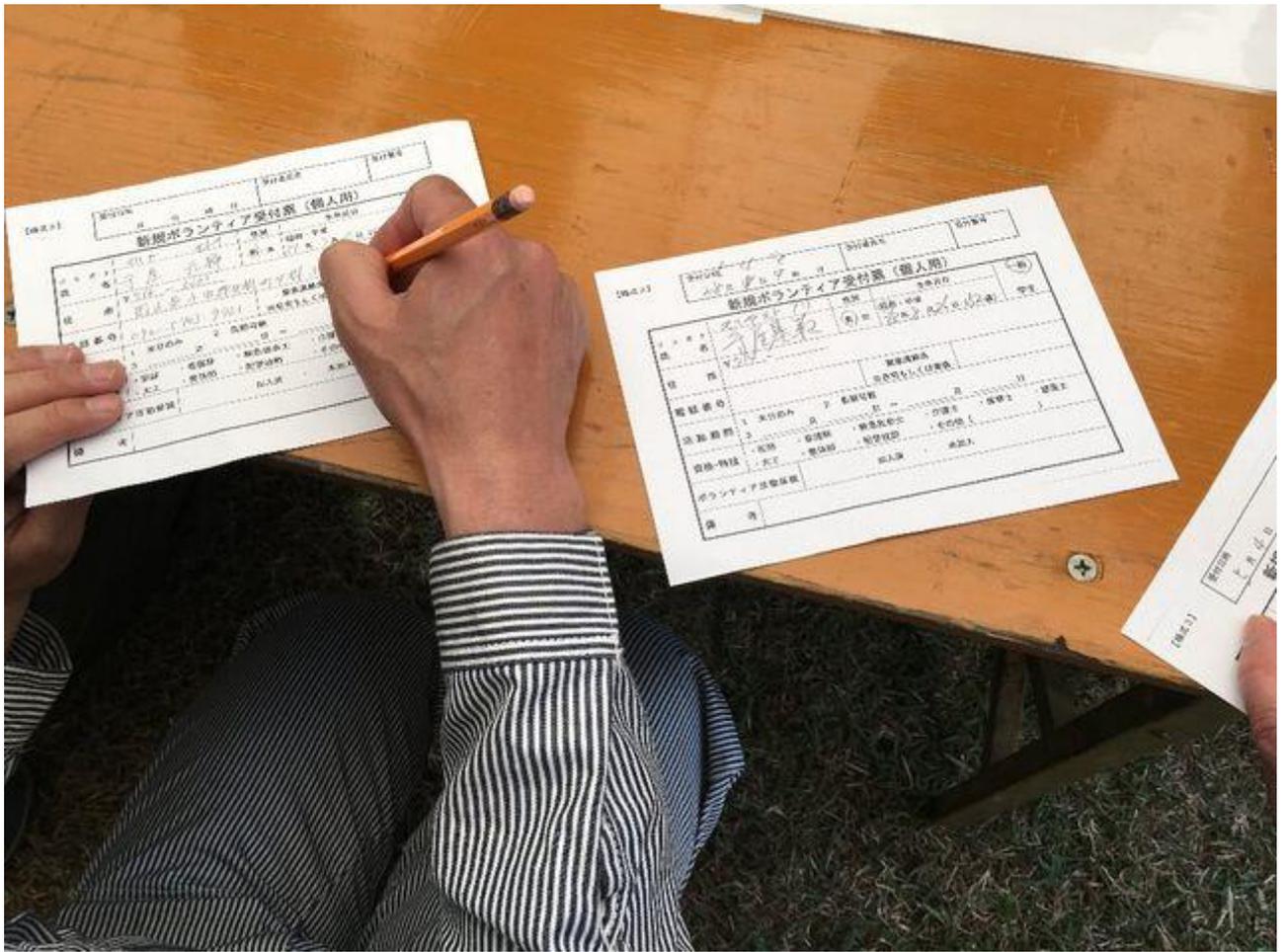


10 基のテントに受付・オリエンテーション・マッチングなどの旗で分けられて、1 日 20 名程度の職員とボランティアで運営されています。駐車場も地元の高齢者のご活躍でした。



毎日 300 名程度の方々が来られるということですが、スムーズにマッチングされ現場へ送り出されていました。

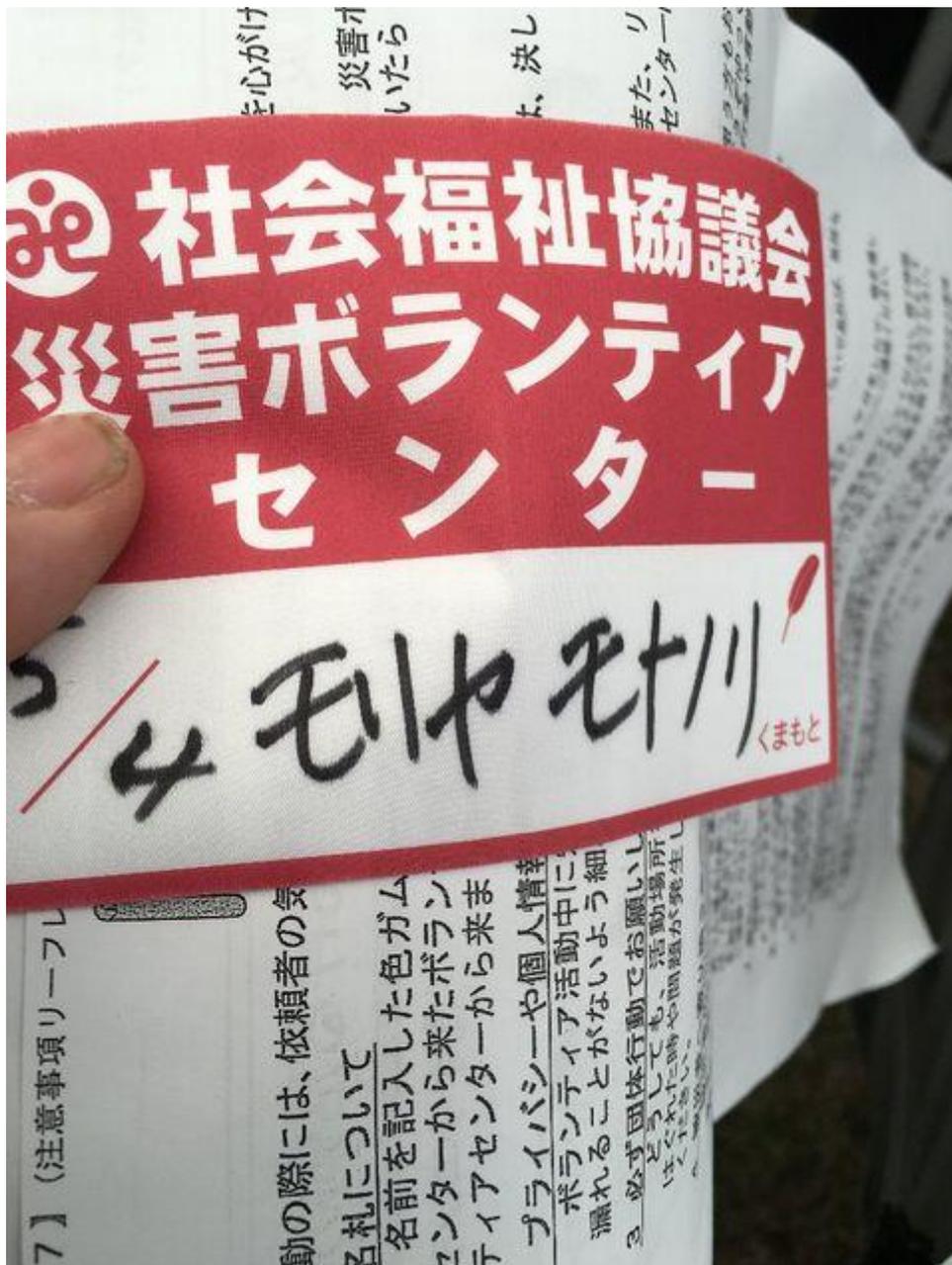




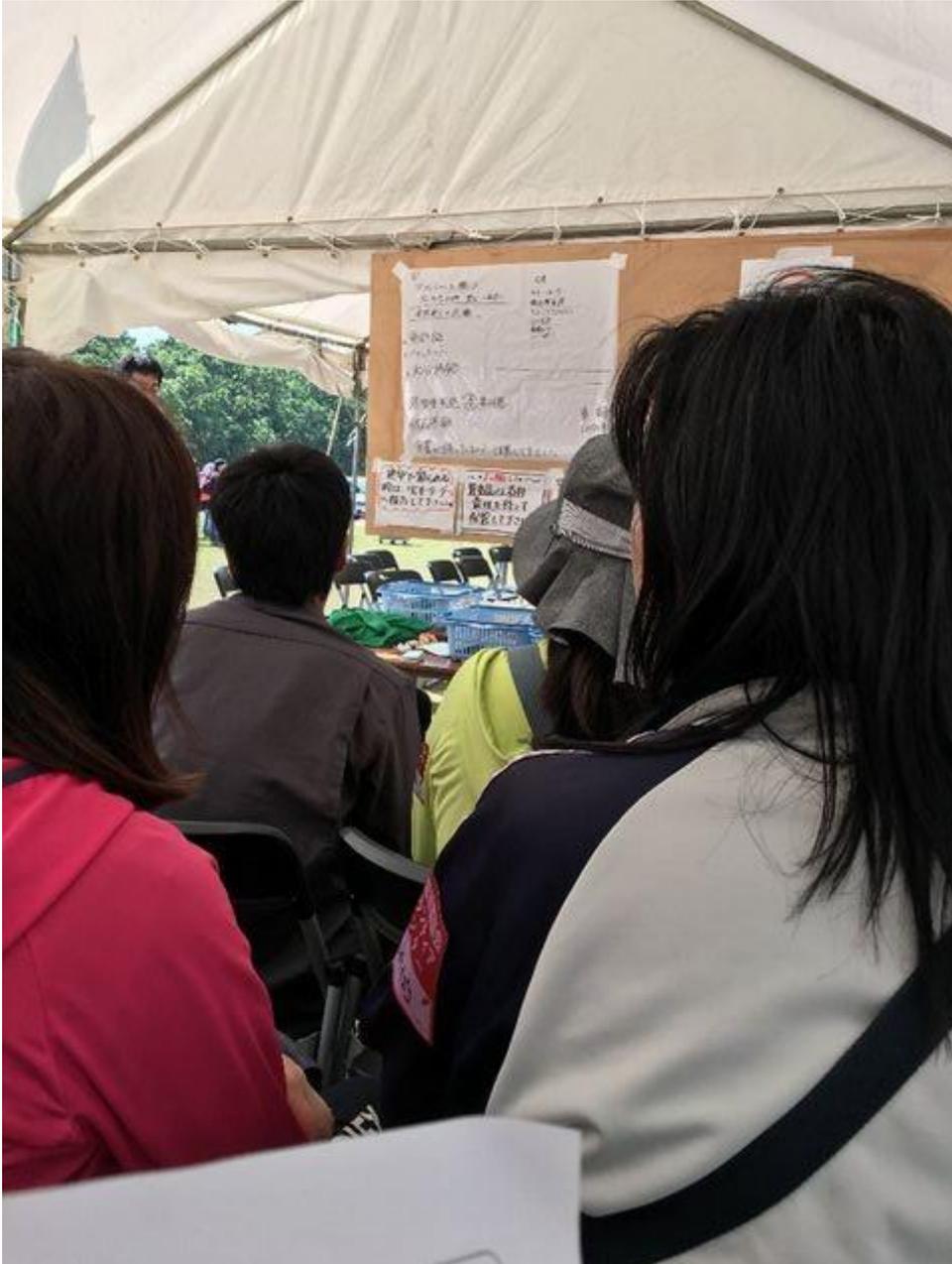
新規の場合は受付票を記入。インターネットで事前に登録する仕組みがあるみたいで、その人は新規でも名前のみでOKとのことでした。



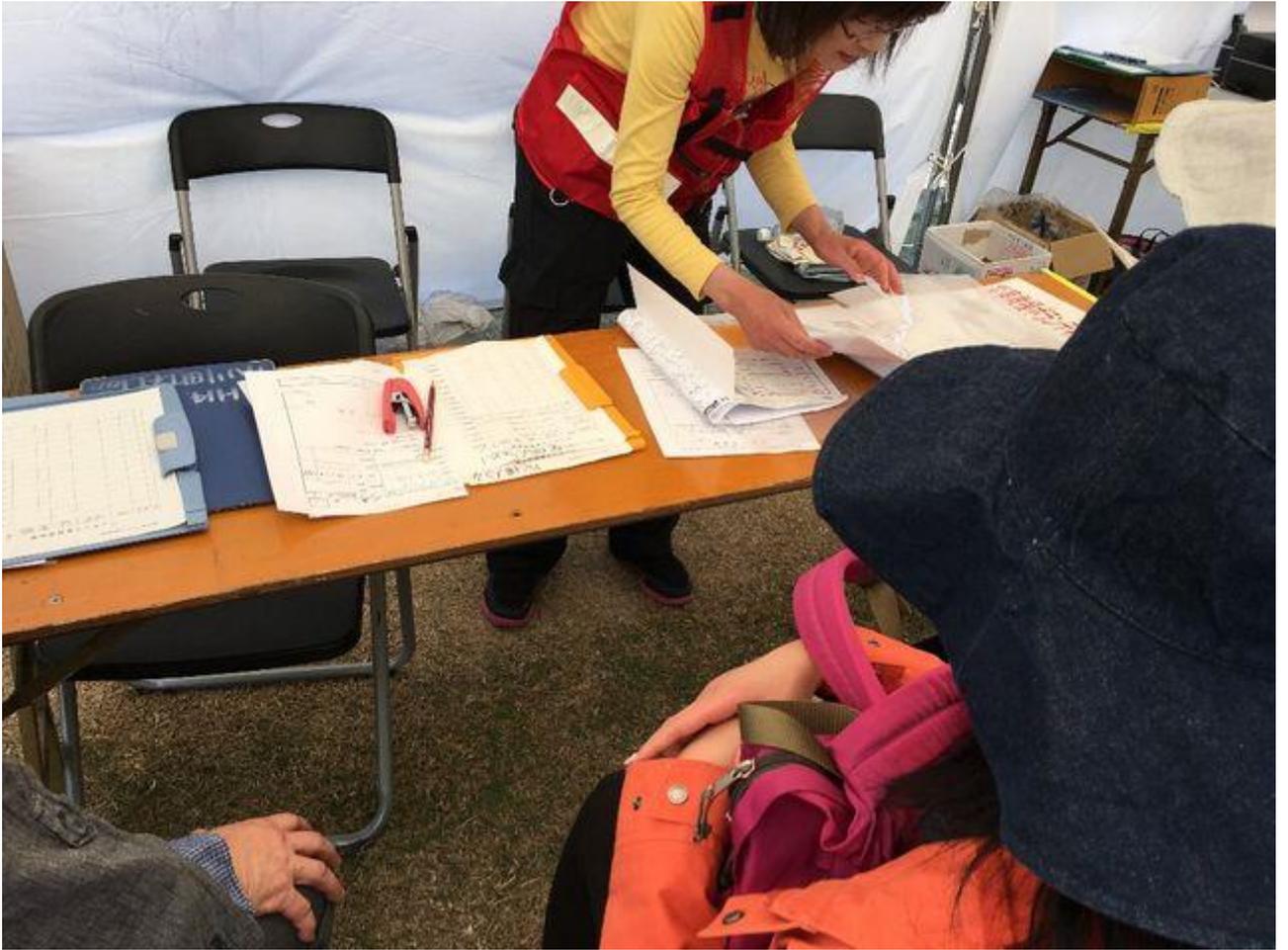
車を持っている人には車出します的な書き物がありそれをマッチングの時に提示します。



登録が終わるとこのネームを書いて利き腕でないほうの方に貼ります。  
この後、初めての方は約 15 分のオリエンテーリングを受けます。



その後、マッチング。個々の依頼の内容を読み上げて手上げ方式で選んでいきます。  
選ばれた人は席をたってグラウンドでグループミーティング。  
そこで、リーダー、サブリーダー、運転手を決めて名簿を作成します。



そして、依頼者の住所や内容を確認して、ボランティアの為の必要資材を受け取って  
現地へ  
あわせて、この横で水・軍手・マスク・タオルなどを渡してくれました。



宇城市内でボランティアを行い、終了後に報告をおこないます。



被災地では記念撮影を避けるようにということなのですが、一緒に汗を流した同士。車の陰に隠れて記念撮影。といいながら、ボラセンのスタッフに写してもらいました。その後に、近くに銭湯があるから汗を流して疲れを取ってくださいとおっしゃっていただきました。

ここでは余り触れていないのですが、場所によってかなりの被災の差があります。益城町を見た時には言葉を失いました。ボランティアがどうのといった状況ではありません。

帰りに AMDA の大政さんを訪ねたのですが、益城町は悲壮感が漂っていました。大勢の避難者がいらっしゃるのですが、小学校が5月9日から再開との方針が出されて教室から体育館へ移動する人、他の場所を確保する人など大変な状態。益城町はメディアを完全シャットアウトしているので被災状況は報道されていないのですが

大変な状態でした。AMDAは事務局の方がこちらの出身で実家も全壊と いうことで早くから拠点を構えて医療支援を中心に支えていらっしゃるようです。東日本大震災と違うのは家はなくても働き場は残っていること。昼間は運動場 には100人ぐらいの避難者が300人程度になるようです。支援物資も外から無償で入れずになるべく熊本県内などの地域で確保し、商売が継続できるように したいとか。こちらが考えているように本当に単純ではないことばかりです。それぞれの考え方、それぞれの方針を理解しての支援活動が求められます。

最後に、私たちにでもできることはあると思いました。

特に被害の激しい所は国や県などの行政の力がかなり需要だと思います。

今回活動した宇城市などは比較的経度の瓦やブロックの片付け作業が多いために一般ボランティアでも手軽に活動することができます。

他のボランティアセンターは見えていませんが、宇城市は社協の中で対応を考えて独自にやっている感じです。表向き九州地域以外からは受け入れないとの広報を表向きしていますが、熊本市であふれた方を積極的に受け入れているようです。(九州以外からも受け入れたらドンと押し寄せたら困るという判断のようです。)

「明日への架け橋 Kasaoka」でも早急に報告会を開いてメンバーで共有し、次の行動を起こしたいと思います。

単に、熊本へ災害ボランティアに行くだけでなく、地元で宇城市のような体制作りができるか？スタッフの意識、人材、場所等の備えを日ごとから考えるきっかけにもなればと思います。

九州の方々もたぶん「九州ではないだろう」と思っていたと思います。